

オンライン版 虚子記念文学館所蔵 近代文学作家自筆資料集

価格¥300,000（税別）

- ・ 原本：公益財団法人 虚子記念文学館
- ・ プラットフォーム：J-DAC ジャパン デジタル アーカイブズ センター
- ・ 完全買切型（ご購入後のプラットフォーム利用料、年間維持費用は不要です）
- ・ ご契約の際は、所属機関のIPアドレスが必要となります。
- ・ 無料トライアル受付中。お申し込みはkenkyushien@maruzen.co.jpまで



虚子記念文学館が所蔵する近代文学作家の自筆資料を横断的に利用できるデータベース

明治～戦前期までの資料を対象とし、高浜虚子、夏目漱石、森鷗外、芥川龍之介、正岡子規、佐藤春夫、長塚節など、日本の近代文学を牽引した 60 名以上の作家の自筆資料約 450 点を収録。

直筆原稿類は、夏目漱石「吾輩は猫である」をはじめ、高浜虚子、伊藤左千夫、小川未明、鈴木三重吉、小宮豊隆、安倍能成など、『ホトトギス』に掲載された小説や評論が中核をなす。また、正岡子規の「仰臥漫録」、「病牀手記」も完全収録。子規最晩年の日記である「仰臥漫録」は、色彩豊かな子規の画と文をフルカラーで原本を手取るように閲覧できる。書簡類は、夏目漱石、正岡子規を中心に、芥川龍之介、幸田露伴、佐藤春夫、そして 2018 年に発見され話題となった森鷗外 の全集未収録書簡等の新史料も含まれている。そのほか、虚子記念文学館ならではの資料として句会稿も複数収録。子規が毎月自宅において開催した句会は、漱石、鷗外、虚子らの文学的交流の場であった。明治 20 ～ 30 年代の活発な文壇の様子を窺うことができる貴重史料である。さらに、浅井忠の絵葉書や、ホトトギスを支えた洋画家・中村不折、岡本月村らの挿絵等も収録。近代文学はもとより、近代美術史、出版文化史の分野においても必備の資料集。

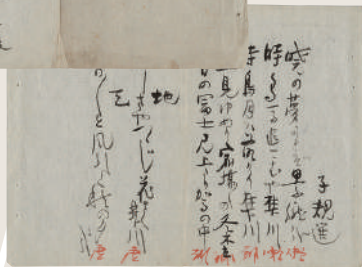
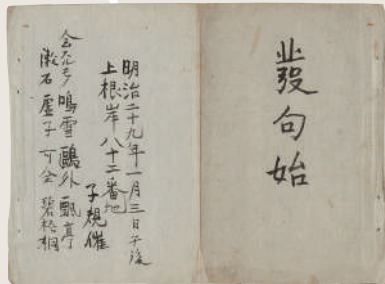
J-DAC ジャパン デジタル アーカイブズ センター
Japan Digital Archives Center

オンライン版 虚子記念文学館所蔵 近代文学作家自筆資料集



下村為山画／河東碧梧桐識「明治三十一年、二年頃の子規庵新年句会図」

句会稿



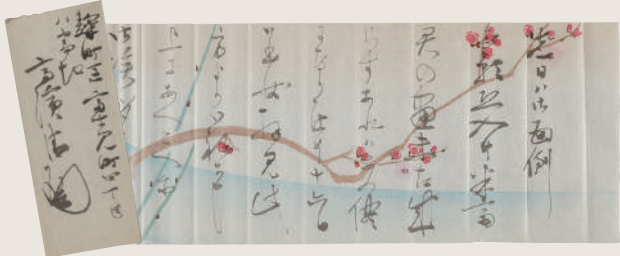
▲新年句会稿「発句始」
(明治29年1月3日、子規庵)
参加者は子規・虚子・漱石・鷗外・鳴雪・飄亭・碧梧桐・可全（碧梧桐兄）。まだ無名の英文学者であった漱石が参加している貴重な句会稿。



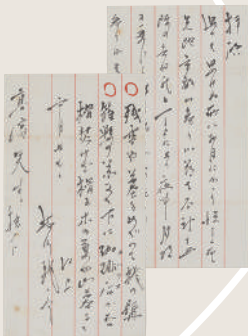
▲高浜虚子宛夏日漱石書簡
(明治41年3月24日)



▲正岡子規宛浅井忠絵葉書
(明治34年9月23日)
病床の子規に宛て、浅井忠がいばりの景色を描いた絵葉書。浅井忠・呉秀三・和田英作・満谷国四郎4名の寄せ書き。「仰臥漫録」に所収。



▲高浜虚子宛森鷗外書簡（明治39年2月22日）
「うた日記」選句への謝意を述べたもの。鷗外全集未収録。



▲高浜虚子宛芥川龍之介書簡
(大正8年6月27日)

手稿の宇宙、その輝き ― 近代文学作家自筆資料集に寄せて

早稲田大学教授 宗 像 和 重

正岡子規の「仰臥漫録」は、最晩年の病床日録で、二つ折りの半紙を紙綴で綴じた二冊から成っている。それを子規の枕元で実見した高浜虚子は、雑誌『ホトトギス』の消息欄に、「仰臥のまま一行二行づつ位筆を取り何くれとなく認むるもの、写生の色彩画あれば、俳句あり、御馳走の記事あり、『墨汁一滴』の更に短きが如きものにて甚だ面白く覚え候」と記し、「行く行くは本誌に掲載の榮を得べく候」とも続けている。実際には子規の没後に掲載されたが、この時虚子が味わった面白さが、そのまま伝わったかどうかはわからない。「仰臥漫録」の「仰臥漫録」たるゆえんは、苦痛にあえぎ、寝返りもままならない中で「仰臥のまま一行二行づつ位筆を取」る、その筆の跡にこそ存在しているからである。

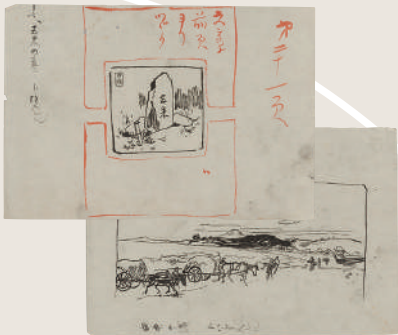
もとより、日本の近代文学が、新聞や雑誌などの新しい活字メディアを媒介とした「活字的世界」（前田愛）のうえに成り立っていることは、言うまでもない。言葉は活字によって広く流通し、多くの読者を獲得することになったけれども、目を凝らしてみれば、その「活字的世界」の背後には、原稿やノート、書簡や日記などを始めとする、広漠たる手稿の宇宙が広がっている。それらは、活字のテキストを読み解くための貴重な資料であるばかりでなく、その用箋や筆記具、筆跡や書き癖など、一回限りの「アウラ」（ベンヤミン）を帯びた輝きを放ちながら、言葉で表現することの喜びと苦しみを、ありありと私たちに伝えてくれる。

このたび、この「仰臥漫録」や夏目漱石「吾輩は猫である」最終章の原稿、『ホトトギス』にまつわる諸家の書簡など、虚子記念文学館所蔵の数百点に及ぶ自筆資料が、オンライン版で配信されるという。『ホトトギス』が育んできた、言葉と友情の足跡が一望できる。なんとという壮観だろう。近代文学や関連諸分野の研究に大きな恩恵をもたらす朗報であることはもちろんだが、むしろ私には、言葉に憑かれた「筆の虫」たちの蠢くさまを、精細なカラーで、まじまじと観察できることが何よりもうれしい。

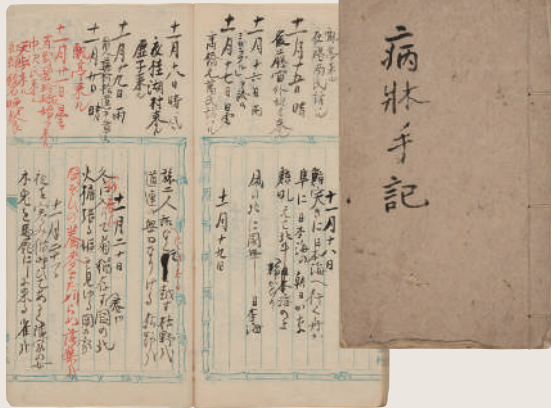
明治から昭和戦前まで作家の息遣いを今に伝える珠玉の自筆資料群

書簡は、虚子が最も大切に遺していた子規と漱石からの叱咤激励の100通余をはじめとして、森鷗外、芥川龍之介、長塚節、陸羯南、内藤鳴雪、浅井忠、小川芋銭と多岐にわたり、それぞれの自筆から、作家や画家達の豊かな個性を看取することが出来ます。さらに明治中期の日記文学の白眉である、子規晩年の日記「仰臥漫録」2冊も収録。子規が画家・中村不折からもらった絵具は高品質であったため、鮮やかな色彩のスケッチが再現されています。

西暦2000年の開館以来、今年で20年の節目を迎える当館は、今後も所蔵資料の保存及び公開に努めてまいる所存ではございますが、このオンライン版の刊行によって、より多くの方々に当館資料を御活用いただき、俳句のみならず、文学や美術等、種々のジャンルの研究に御役立ていただくことを、切に希望しております。



▲「吾輩は猫である (9) 挿絵」
上：岡本月村画「去來の墓」／下：中村不折画「由井ヶ濱」



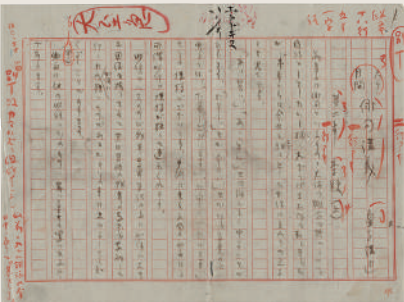
▲正岡子規「病牀手記」（明治38年8月2日～11月21日）



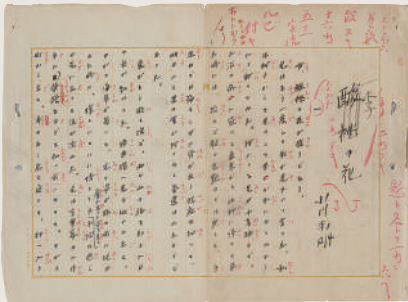
▲夏目漱石「吾輩は猫である (11)」最終章原稿
(明治39年)



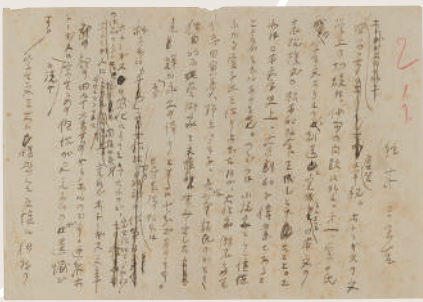
▲正岡子規「仰臥漫録」（明治34年9月2日～明治35年9月3日）
大韓帝国皇帝から下賜されたチマチョゴリを着る少女（陸羯南の娘）を描いたもの。左上に「芙蓉ヨリモ朝顔ヨリモウツクシク」と詠んでいる。



▲高浜虚子「六ヶ月間俳句講義」（大正2年）



▲小川未明「李の花」（大正5年）



▲鈴木三重吉「ホトトギス四百号」（昭和4年）

刊行にあたって

公益財団法人 虚子記念文学館
館長 稲畑汀子

このたび、俳人 高浜虚子（1874～1959）が所蔵していた貴重な自筆原稿や書簡等、約450点が収録された、『オンライン版 虚子記念文学館所蔵 近代文学作家自筆資料集』が刊行の運びとなりました。

松山出身の虚子は、同期の河東碧梧桐と共に、同郷の先輩である正岡子規に俳句を主とした文学指導を受け、明治31年10月からは、俳句を主とする月刊芸雑誌「ホトトギス」の編集発行人となりました。この俳誌「ホトトギス」は現在1480号を突破し、今なお脈々と継承されています。従って、このオンライン版に収録された自筆原稿には、「ホトトギス」に掲載された短編小説や写生文、評論等が多く、中でも子規写生文「飯待つ間」や、夏目漱石の作家デビューのきっかけとなった「吾輩は猫である」ペン字自筆原稿（9章と最終11章）といった明治期の第一級資料が多数含まれています。また充実の虚子宛

原稿

原稿・草稿、ノート、映画シナリオ——
巨匠・横溝正史が残した珠玉のコレクション

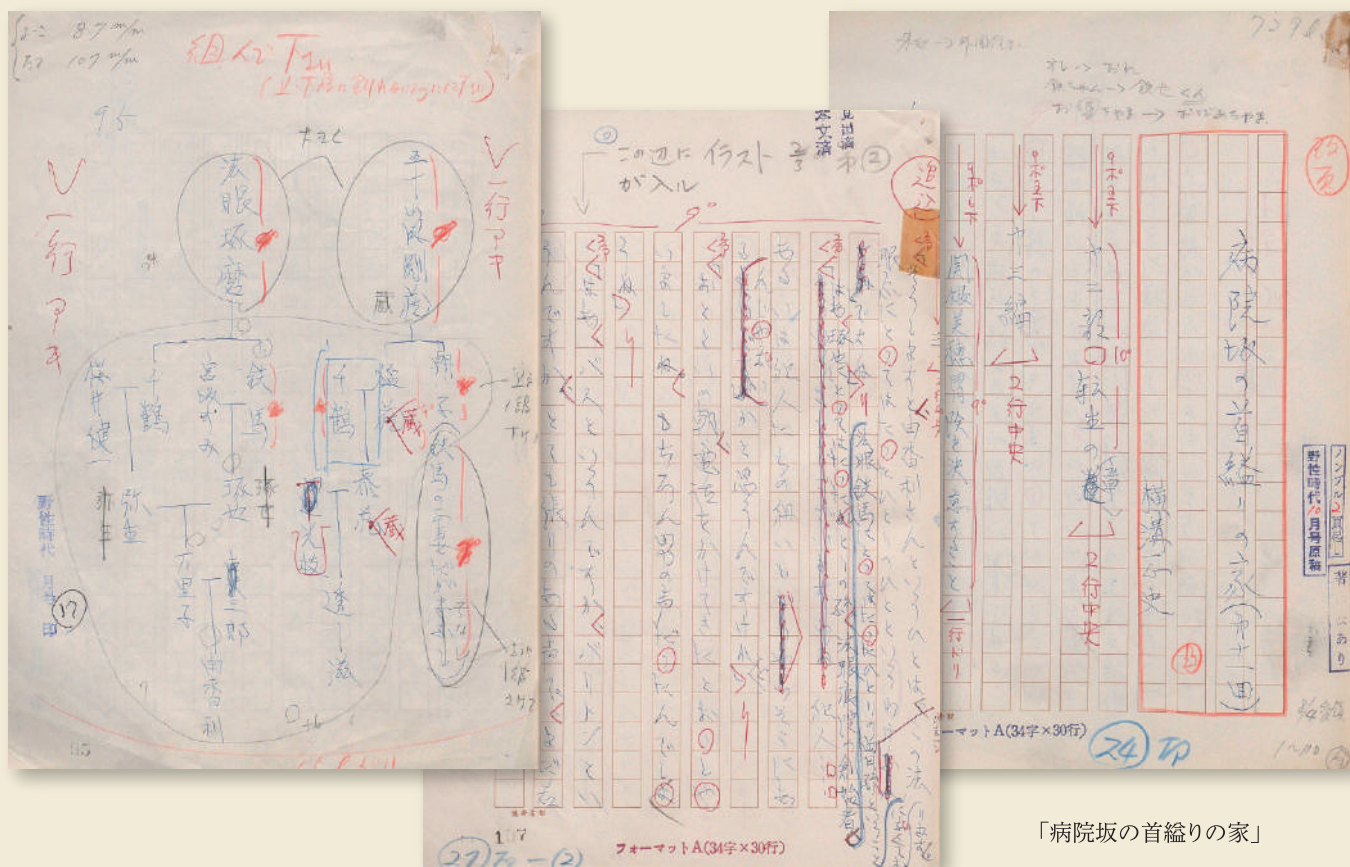
オンライン版
二松学舎大学所蔵

横溝正史旧蔵資料



完成原稿

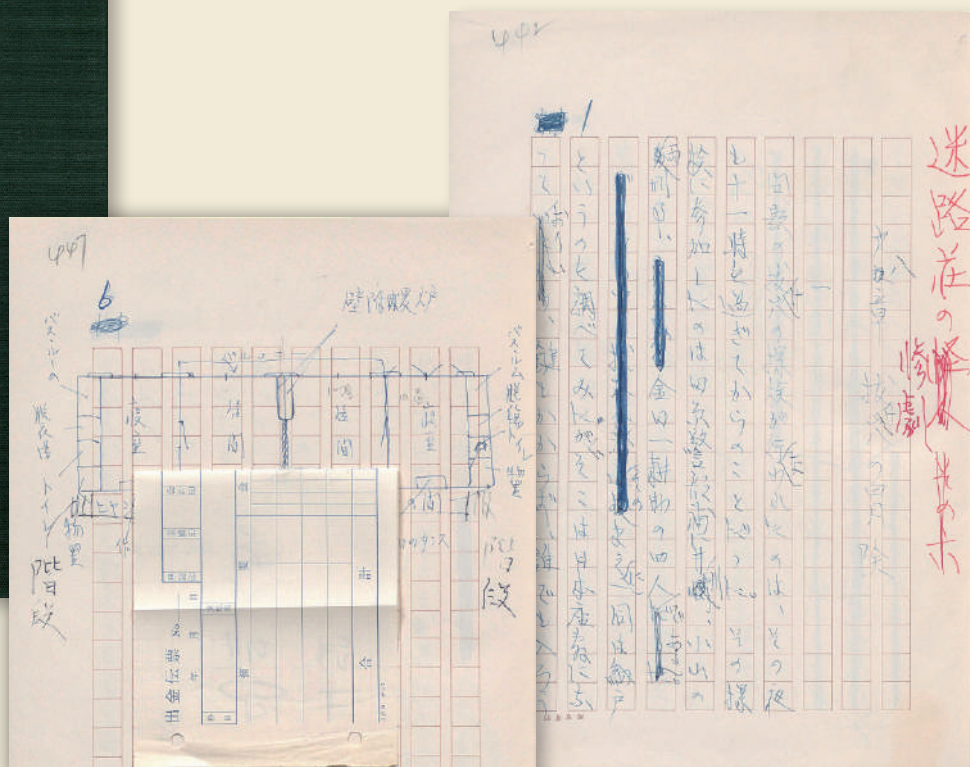
「病院坂の首縊りの家」「悪霊島」「迷路荘の惨劇」「楽しかりし桜の日々」「上海氏の蒐集品」の製本された完成原稿（14冊、約6,700枚）。イラストの位置や文字の大きさなどの指示の跡も見てとれる。



「病院坂の首縊りの家」



「迷路荘の惨劇」

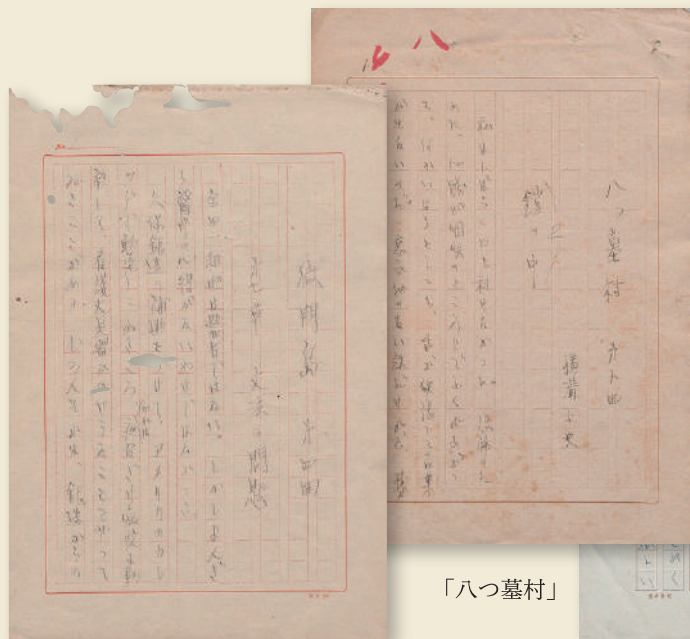


作家の創作現場に迫る 1万4千枚を超える白筆資料

原稿・草稿

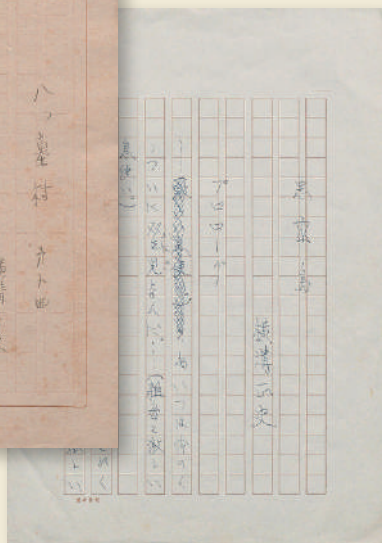
1930年代から1970年代まで、ジャンルを超えた7,600枚以上の原稿・草稿を収録。横溝は原稿用紙を大切に扱っていたため、原稿用紙の裏面にメモや他の作品の下書きが書かれていることも多い。裏書きがある場合は表と裏の対応がわかるようにし、原資料を手にするように閲覧できる。

金田一耕助シリーズ

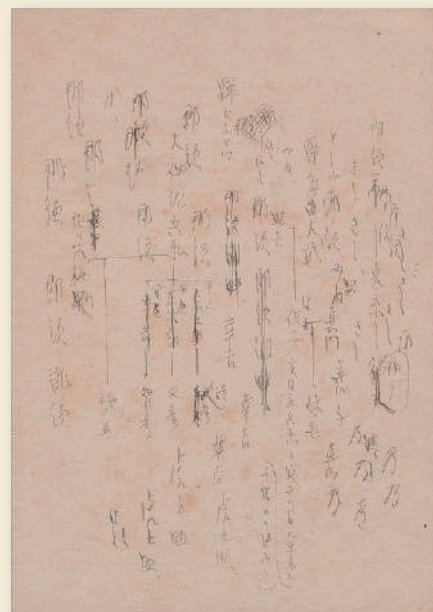


「獄門島」

「八つ墓村」

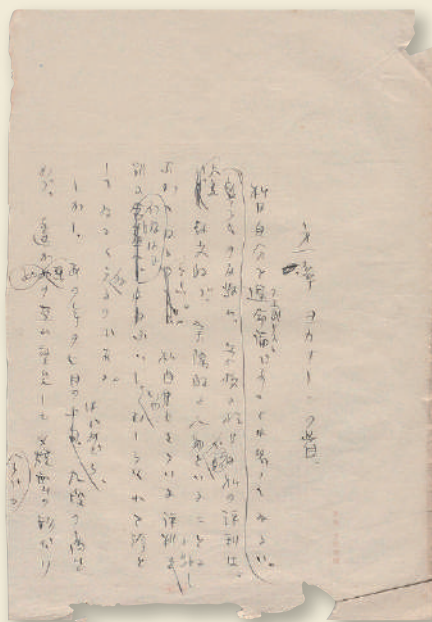


「悪霊島」

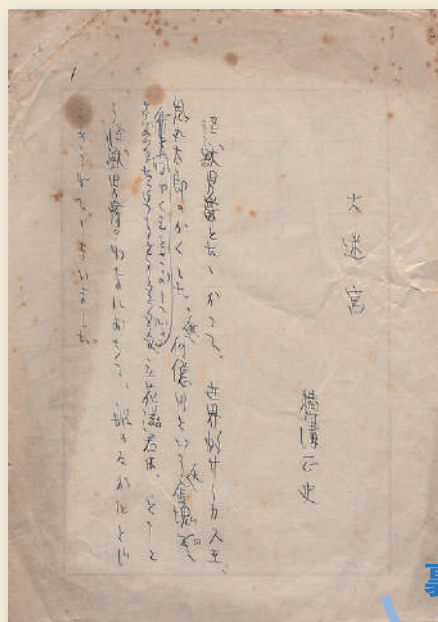


「犬神家の一族」の裏面に
書かれた人物関係図

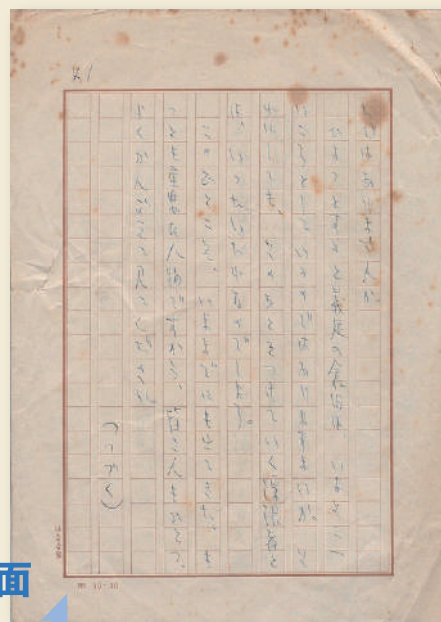
由利・三津木シリーズ



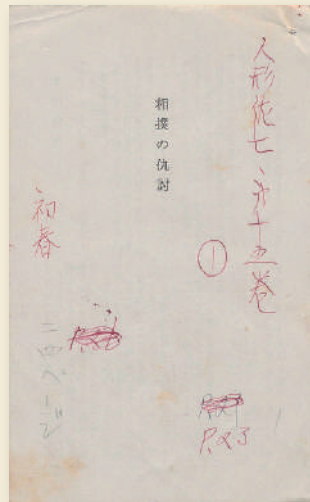
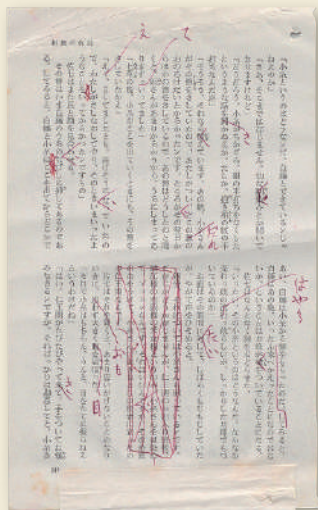
「真珠郎」



「大迷宮」



「黄金の指紋（皇帝の燭台）」

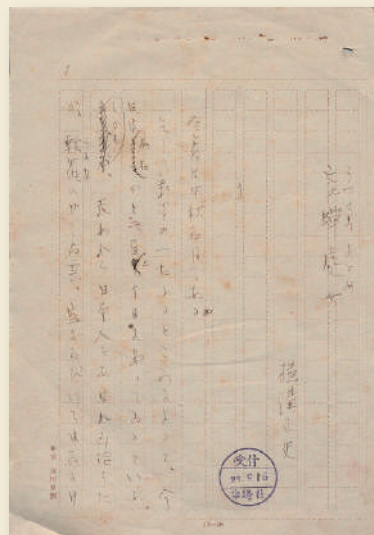
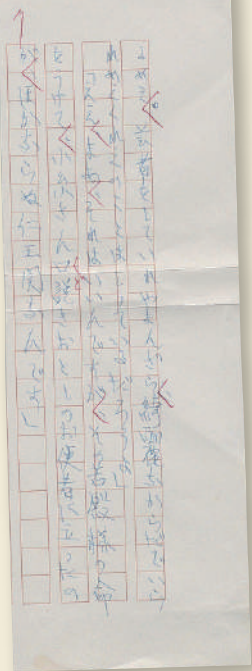


「相撲の仇討」

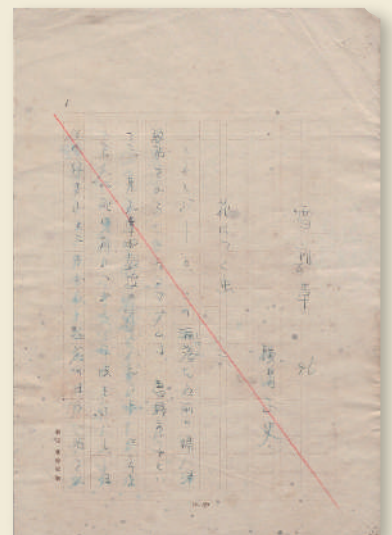


「風雲ゼンダ城」

現代小説



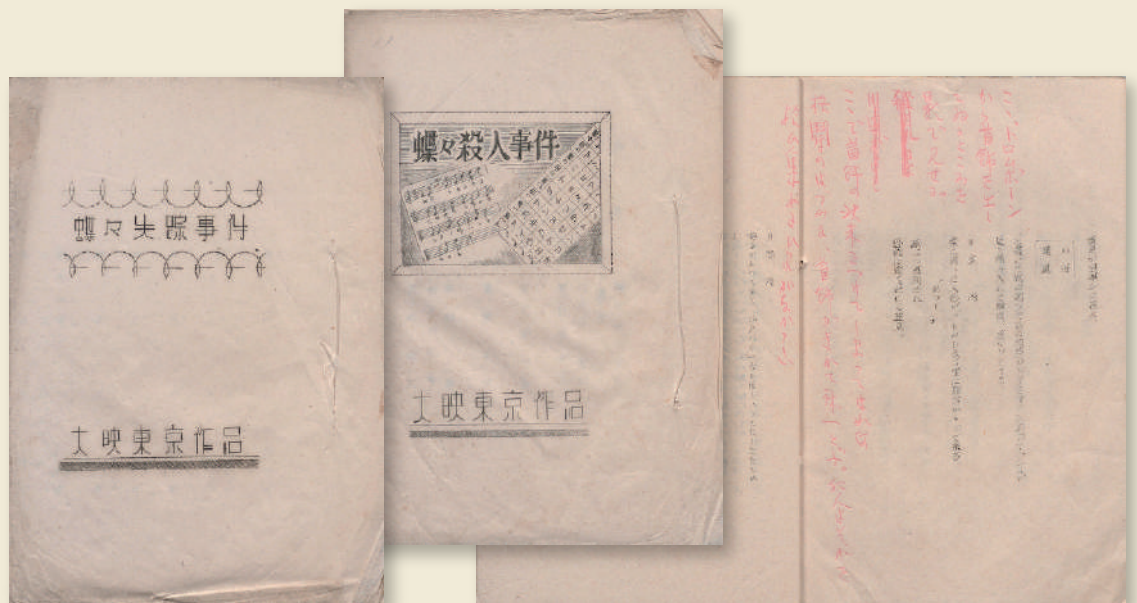
「空蟬処女」



「雪割草」

シナリオ

占領下の映画シナリオ「蝶々殺人事件」「蝶々失踪事件」を収録。映像化にあたって横溝本人も書き込みを残しており、貴重。



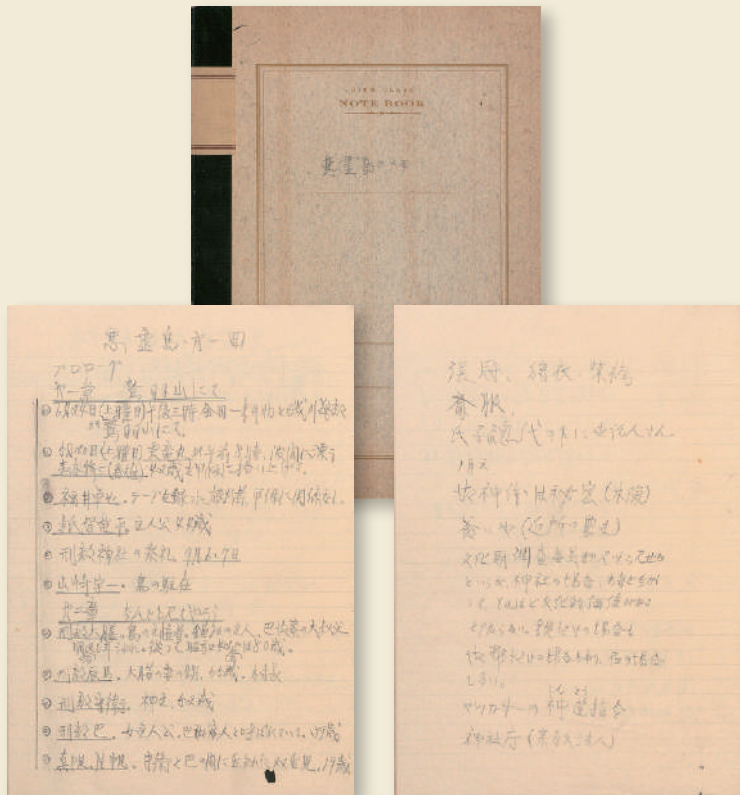
「蝶々失踪事件」/「蝶々殺人事件」〔高岩肇脚色 横溝正史原作 江戸川乱歩構成補導〕

ノート

「悪霊島」に関するノート2冊を収録。取材時のメモや、章立てなどが書き込まれている。

切り抜き

本人が加筆修正を施した雑誌・単行本切り抜き 30 点を収録。



「悪霊島のメモ」



「くろしお秘帖」（「しらぬ火秘帖」に改題）

推薦のこぼ

横溝研究は、これからだ

成蹊大学教授 浜田雄介

この資料集は、ただちに横溝正史の熱烈なファンや在野の研究者に開かれたものではない。繊細な扱いを要する資料のために学術機関への限定公開という方法が採られるのだが、大衆的な人気のある横溝の場合は悔しい思いをする人もいるだろう。それを思えば、大学など学術機関の学生や研究者には、いっそう正しく資料を活かすことが求められるかもしれない。

今日、卒業論文で探偵小説作家や作品を扱う学生は多く、関連論考は学術誌にもしばしば掲載される。探偵小説を扱うアカデミズムは諸領域に及ぶが、その中心はやはり人文学であろう。すなわち人間に関する学問である。探偵小説はその人間の認識を更新したジャンルだが、ことに横溝は、作家としての人間性においても決定的に新しかった。

新しさとはつまり時代との共振だが、実に横溝は、大正末には雑誌『新青年』を編集してモダニズムの花を咲かせ、文芸復興期には浪漫的な芸術性を追究、戦時には捕物帳を書き継ぎ、戦後は「さあ、これか

らだ！」と本格探偵小説の新時代を切り開いた。やがて晩年には映像メディアにも関わり大衆消費社会に活躍するアイドル老作家となる。

だから横溝をたどることは時代をたどることなのだが、本資料集には、戦中から書き継がれた捕物帳シリーズや戦後の探偵小説傑作群、また時代を隔てて完成を迎える作品の草稿や最晩年の創作ノートが含まれている。それぞれの時代に選ばれた言葉と選ばれなかった言葉との対峙が、私たちに何を見せてくれるか楽しみでならない。

そして同時に、その文字を追う時の気持ちも想像する。時代を牽引した作家であっても、書くという行為はやはり孤独な時間を過ごすことだったはずで、自筆資料を読むとは、その孤独に触れることでもあろう。J-DACでは今後も探偵作家、近代作家の自筆資料紹介を進めるといふ。デジタル・ヒューマニティとは、案外、人間の孤独と向きあう学問になってゆくのかかもしれない。

オンライン版

二松学舎大学所蔵

横溝正史旧蔵資料

解題：山口直孝（二松学舎大学教授）

価格 ¥ 300,000 (税別)

プラットフォーム：J-DAC ジャパン デジタル アーカイブズ センター

完全買切型（ご購入後のプラットフォーム利用料、年間維持費用は不要です）

<1ヶ月の無料トライアル受付中、お申し込みは kenkyushien@maruzen.co.jp まで>（お申し込みは学術機関に限ります）

横溝正史（1902～1981）が残した膨大な自筆資料等を収録するデータベース。二松学舎大学が所蔵する原稿・草稿、創作ノート・メモ、映画化された作品のシナリオ、本人が加筆修正を施した雑誌・単行本切り抜き等で構成された一大コレクションを横断的に利用できる。

中核をなす原稿・草稿類は、1万4千枚を超える。「八つ墓村」「犬神家の一族」など金田一耕助シリーズ代表作をはじめ、生前未発表だった「霧の夜の出来事」、新たに発見され話題となった「仮面舞踏会」、今まであまり知られていなかった戦時下の作品なども含まれる。「悪霊島」「病院坂の首縊りの家」「迷路荘の惨劇」等は完成原稿も収録。1930～70年代まで、ジャンルを超えた作品で構成されている。また、「悪霊島」取材ノートや「犬神家の一族」創作メモ等、作品の生成過程を辿るうえで欠かせない原資料もあわせて搭載。映画シナリオは、江戸川乱歩も構成補導を行った占領下の作品2冊を収録。映像化にあたって横溝本人も書き込みを残しており、映画・映像研究の資料としても価値が高い。

探偵小説・時代物・少年少女向けのジュブナイル等の幅広いジャンルを手掛け、今なお繰り返しの映画化・ドラマ化され親しまれている横溝文芸を知るうえで必備の資料であることはもちろん、近代文学、映画・映像、メディア、出版文化史の分野においても比類なき珠玉のコレクションである。

J-DAC「近代文学作家自筆資料集」に搭載し、他の近代文学作家の自筆資料との横断検索も可能。



J-DAC「近代文学作家自筆資料集」で横断検索が可能

オンライン版 虚子記念文学館所蔵 近代文学作家自筆資料集 価格 ¥ 300,000 (税別)

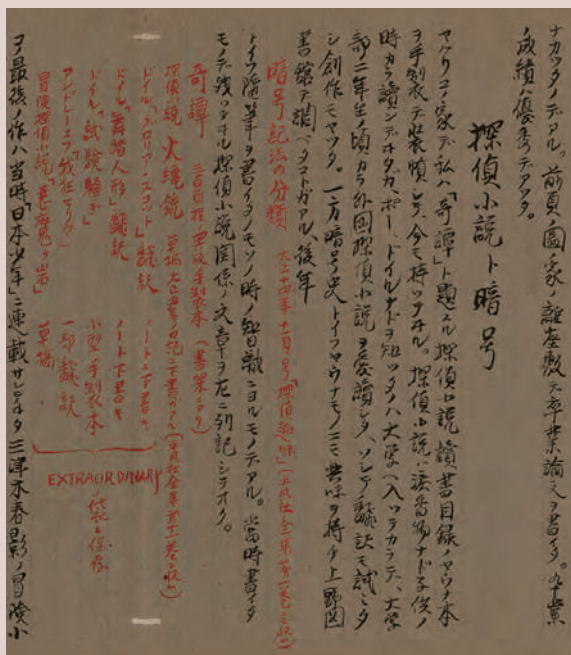
虚子記念文学館所蔵の明治～戦前期までの資料を対象とし、高浜虚子、夏目漱石、森鷗外、芥川龍之介、正岡子規、佐藤春夫など、日本の近代文学を牽引した60名以上の作家の自筆資料約450点を収録。

江戸川乱歩『貼雑年譜』

立教大学大衆文化
オンライン版

立教大学大衆文化研究センター 旧江戸川乱歩邸

所藏

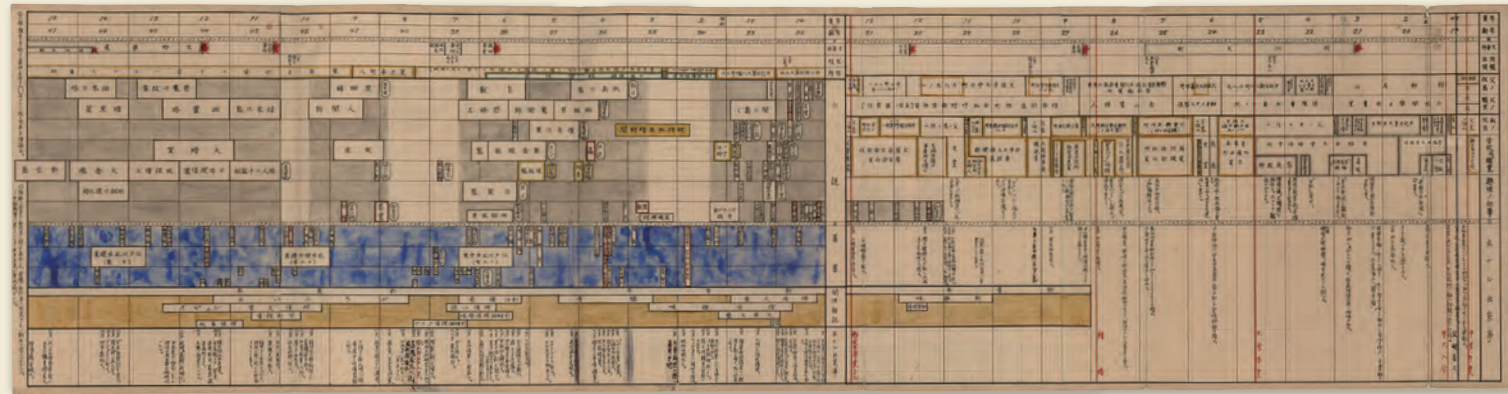


丸善雄松堂株式会社

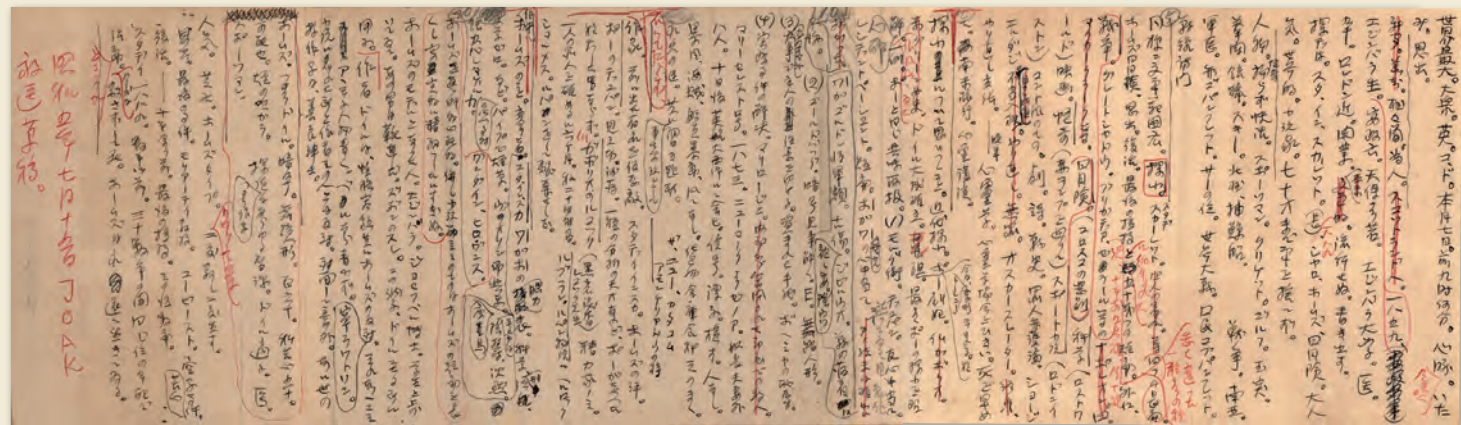
乱歩が生涯にわたって収集、整理、保存した2

——明治～昭和期の文学、文化、社会を照射する一大コレクション——

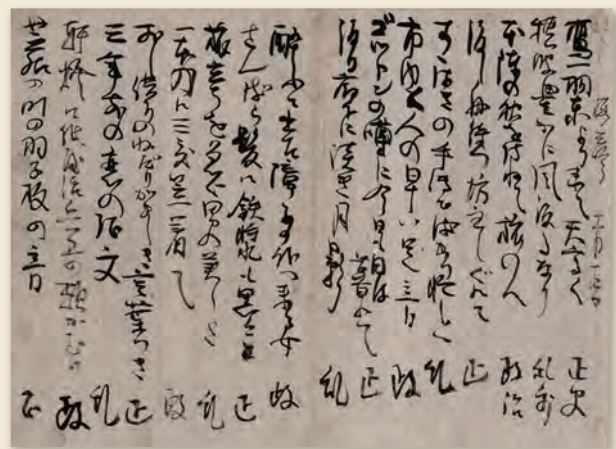
● 自筆資料



出生ヨリ四十七才マデノ鳥瞰図（昭和16年4月）

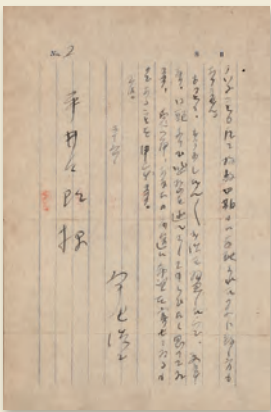


ドイル死す マイクロフンの前に置いて見ながら喋った講演草稿（昭和5年7月15日）

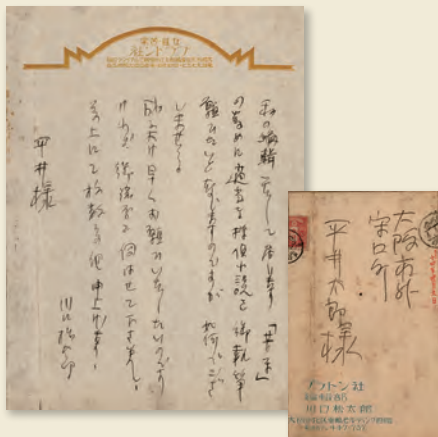


〔横溝正史・江戸川乱歩・西田政治連句〕（昭和22年）

● 書簡



宇野浩二書簡
（大正14年1月26日）

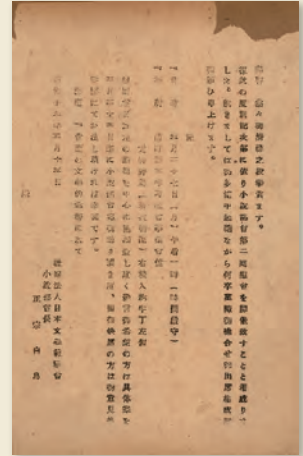
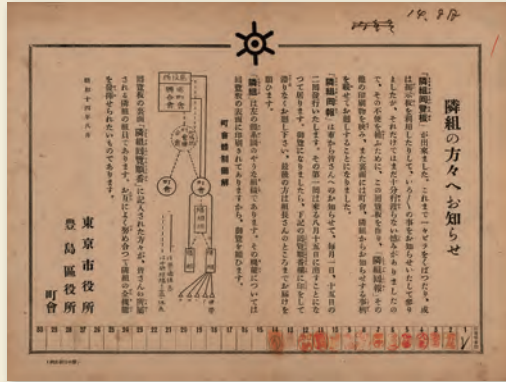


プラトン社 川口松太郎書簡（大正14年4月9日）

2,600点以上に及ぶ原資料に自在にアクセス

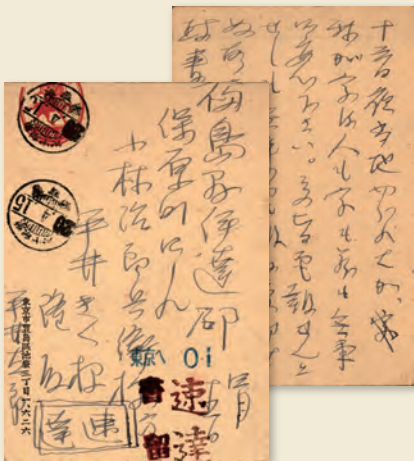
戦時下

乱歩が副会長を務めた町会や隣組の資料のほか、大政翼賛会、日本文学報国会など、戦争と文学を考えるうえで貴重な一次史料も含む。



隣組の方々へのお知らせ（昭和14年8月）

日本文学報国会小説部会決戦総会（昭和19年3月15日）



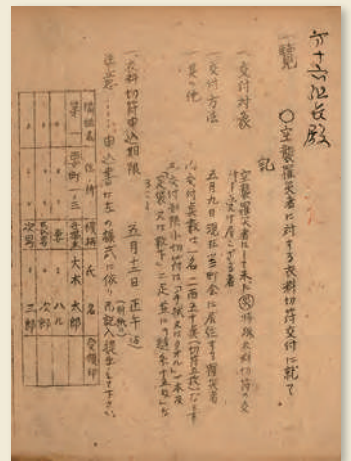
疎開先への葉書
（昭和20年4月15日）



都市疎開二件フ
地方転出証明書
（昭和20年3月13日発行）



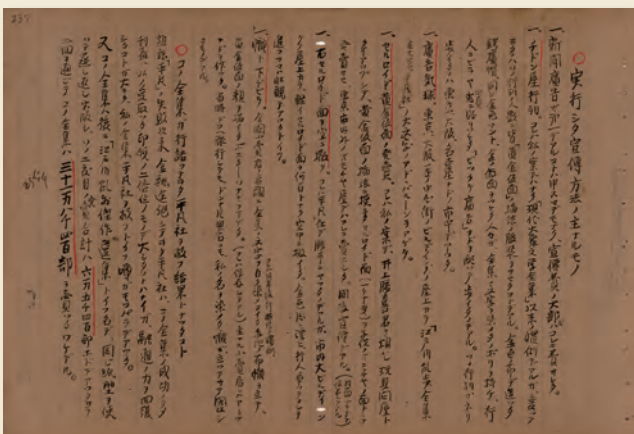
〔焼夷弾被害の状況〕
（昭和20年5月27日）



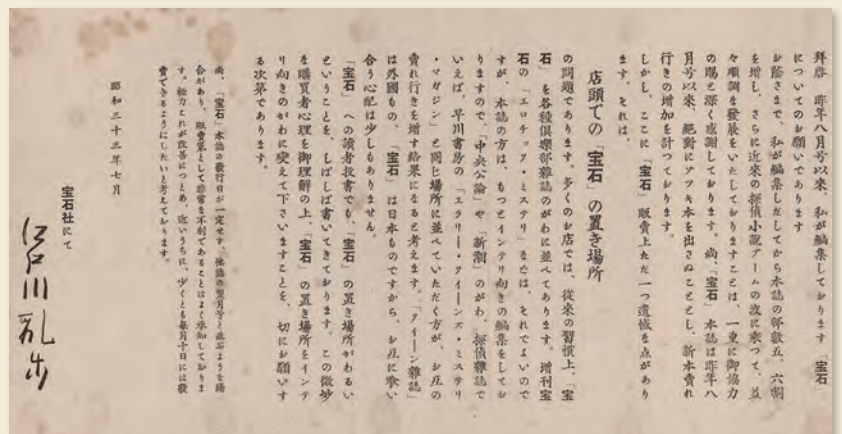
空襲罹災者に対する衣料切符
交付に就て（昭和20年5月10日、
池袋三丁目会）

メディア・広告

自身の作品で行った宣伝・広告技法に関する記録や書店に配布された通知文等もスクラップされている。



実行シタ宣伝方法ノ主ナルモノ（昭和6年5月）

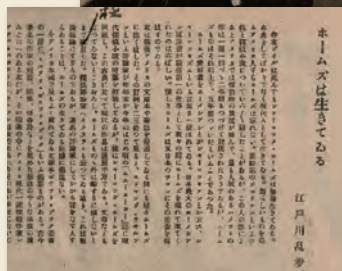


〔店頭での「宝石」の置き場所についてお願い〕（昭和33年7月）

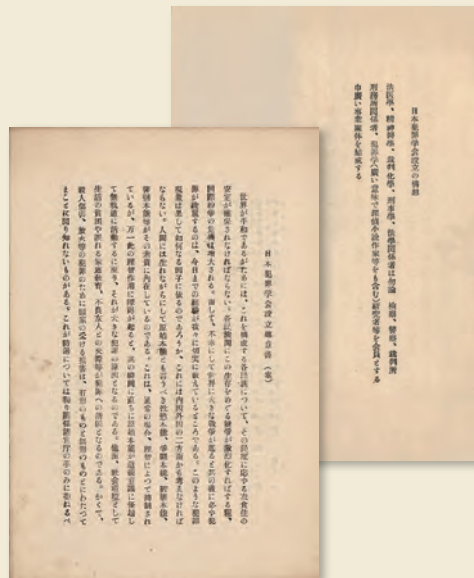
「一枚の切符」
及「黄金仮面」
エスペラン語
(昭和5年12月)



「魔術師」露字新聞に翻訳連載サル
(昭和6年5月29日)



ホームズは生きてゐる
(「探偵小説ニュース」No.1、昭和21年9月6日)



日本犯罪学会設立趣意書(案) (昭和27年1月)

推薦のことは

膨大なビジュアル資料で辿る乱歩とその時代

金城学院大学教授 小松史生子

1938(昭和13)年、探偵小説雑誌が軍部の検閲のもとでどんどん廃刊に追い込まれ、探偵小説掲載を柱に都会のメンズマガジンとして認知されていた『新青年』誌面も戦時色に気を遣うようになってきたさなか、1939(昭和14)年3月、ついに江戸川乱歩の「芋虫」が全編削除を命じられる。以後、乱歩の既発表作品は事実上発禁扱いとされ、1942(昭和17)年には既発表作はすべて絶版、新作依頼も皆無といった状況になる。他の探偵小説作家達が失意の底に沈んだり、捕物帳や科学小説に活路を見出したりする中であって、乱歩は全く独自の方針を採った——それがすなわち、同時代資料のスクラップで綴るヴィジュアル自伝『貼雑年譜』の作成である。もともと収集癖のあった乱歩は、自分の経歴に関連する雑誌・新聞の切り抜き、チケット類、スケッチ、チラシ等、膨大な数の資料を手元にストックしていた。それらを年次順にスクラップブックに貼り付け、驚くべき記憶力を駆使して自筆解説文を添えていったのである。

今日、『貼雑年譜』は、その質と量において探偵小説史の第一級資料としての評価が揺るぎない。探偵小説研究者である当方も、その観点から『貼雑年譜』を

貴重な文献として認識している。しかし、そうしたアカデミックな評価の一方で、『貼雑年譜』の本当の面白さは、一人の作家が如何にモノマニアックに自分を見つめ、自分の人生を貪欲なまでにヴィジュアル資料の山で表現しようとしたかという点にあるのも事実だ。実際、文壇デビュー以前の誕生時から幼少年期・思春期の頃の資料まで記憶・収集している乱歩のモノマニアックな姿勢には、モノこそが「自分」であるという密かな信条がうかがえ、21世紀の現代に通じるポストヒューマン的ないしはマニエリスム的な思想の萌芽をさえ感じてしまう。

これまで『貼雑年譜』はその膨大さから全冊復刻は見送られてきた。今回、オンラインという方法で全冊が復刻されるという事態は、探偵小説史との相関性だけに収まらない、江戸川乱歩という巨大な自意識の全貌が、20世紀の一次資料と共に臨場感をもって文字通り眼前に甦るという出来事に他ならない。ヒトとモノとが猥雑に共振・共感する、21世紀を予兆するようなポストヒューマニスティックな現場(それこそがまさに江戸川乱歩の世界観!)を、『貼雑年譜』全冊オンライン復刻は私達に体感させてくれるに違いない。

映画・演劇

大正期に大ブームとなった「浅草オペラ」から、戦後に映画化・舞台化された作品のポスター、パンフレット、プレスシート、劇評などを収録。

日本歌劇研究会の事業

一 専門家を聘して時々會合會員が研究の結果を發表し且つ意見の交換をする。

一 歌劇研究雜誌を發行して會員の意見を廣く社會に發表する。

一 歌劇俳優の向上に資する爲め圖書其他の點に於て便宜を計る。

一 適宜の方法により有益なる演劇俳優を後援する。

一 選定では理想則歌劇團の組織を企及する。

一 會員を以て素人歌劇團を組織する。

理事 清水金太郎 佐々紅華
顧問 河合九日郎 眞木裕美
幹事 早本露光 石川千秋
早瀬光 安野健雄
山口竹太郎 松村三郎
山崎久夫 井上七郎
事務所 本郷區込木町六
三人書房

△當日は舞臺上で田舎力三その他佛僑に贈物をする。
△當日來會者には田舎の富貴と河合九日郎作の小劇繪畫を一組宛を送呈する。



浅草オペラ 日本歌劇研究会資料（大正8年5月）

人殺のアイナツルハ

賣り方に就いて

「人殺のアイナツルハ」は、深田 秋太郎の第一回小説「人殺のアイナツルハ」の第二回で、新登場人物の活躍を描く。作者の深田秋太郎は、この小説で、人殺のアイナツルハの活躍を描く。作者の深田秋太郎は、この小説で、人殺のアイナツルハの活躍を描く。作者の深田秋太郎は、この小説で、人殺のアイナツルハの活躍を描く。

映画「パレットナイフの殺人」プレスシート（昭和21年10月）

クリスティ劇について 江戸川

アクロイド殺害事件

アガサ・クリスティ「アクロイド殺害事件」演劇パンフレット（昭和33年10月）

アガサ・クリスティ「アクロイド殺害事件」演劇パンフレット（昭和33年10月）

江戸川乱歩

チェスタトンと三島由紀夫

黒蜥蜴

松本清張

公演によせて

江戸川乱歩原作 三島由紀夫作「黒蜥蜴」プログラム（昭和37年3月）

江戸川乱歩原作 三島由紀夫作「黒蜥蜴」プログラム（昭和37年3月）

立教大学大衆文化研究センター(旧江戸川乱歩邸)所蔵

オンライン版

江戸川乱歩『貼雑年譜』

解題：立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター

石川巧 金子明雄 尾崎名津子 後藤隆基

価格 ¥180,000 (税別)

プラットフォーム：J-DAC ジャパン デジタル アーカイブズ センター

完全買切型（ご購入後のプラットフォーム利用料、年間維持費用は不要です）

<1ヶ月の無料トライアル受付中、お申し込みは kenkyushien@maruzen.co.jp まで>（お申し込みは学術機関に限ります）

江戸川乱歩手製「貼雑年譜」全巻を横断的に検索・閲覧できる学術機関向けデータベース。

「貼雑年譜」は、江戸川乱歩が収集、整理、保存した膨大な資料が貼り付けられたスクラップブックである。乱歩自筆のメモ、日記、原稿類のほか、作家や出版関係者からの書簡、映画・演劇のパンフレットやプレスシート、国内外の新聞雑誌の切り抜きなど、多岐にわたる2,600点以上の原資料が、乱歩のコメント等とともに台紙に貼り付けられている。

本データベースでは、明治27年から昭和39年までの全期間（全9巻）を、詳細な目録を付して収録する。初めて全面公開となる戦中・戦後部分には、乱歩に関わった出版物、映画・演劇、テレビ・ラジオ等の様々な広告宣伝資料や、国内外の探偵作家に関するメモや紹介記事等も丹念に綴じられている。また、日本文学報国会、大政翼賛会や隣組等に関する原資料も多数残されており、戦時を生きた作家の記録としても極めて貴重である。

貼り付けられた個々の資料の検索も可能とし、近代文学、映画・映像、メディア、出版文化史はもとより、広く大衆文化研究に資するデータベースとなっている。

J-DAC「近代文学作家自筆資料集」に搭載し、他の近代文学作家の自筆資料との横断検索も可能。



J-DAC「近代文学作家自筆資料集」で横断検索が可能

オンライン版 二松学舎大学所蔵 横溝正史旧蔵資料

価格 ¥300,000 (税別)

解題：山口直孝（二松学舎大学教授）

横溝正史（1902～1981）が残した膨大な自筆資料等を収録するデータベース。14,000枚を超える原稿・草稿、創作ノート・メモ、映画化された作品のシナリオ、本人が加筆修正を施した雑誌・単行本切り抜き等で構成された一大コレクションを横断的に利用できる。

オンライン版 虚子記念文学館所蔵 近代文学作家自筆資料集

価格 ¥300,000 (税別)

虚子記念文学館所蔵の明治～戦前期までの資料を対象とし、高浜虚子、夏目漱石、森鷗外、芥川龍之介、正岡子規、佐藤春夫など、日本の近代文学を牽引した60名以上の作家の自筆資料約450点を収録。

立教大学大衆文化研究センター
オンライン版

(旧江戸川乱歩邸) 所蔵

江戸川乱歩『貼雑年譜』補遺

舞踏人形

劇中偶感

要石

浅草大ペラ

田谷刀三後援會

名古屋

少年雑誌

時代

OPERA CHILDREN

秘密小説

二銭銅貨荒助

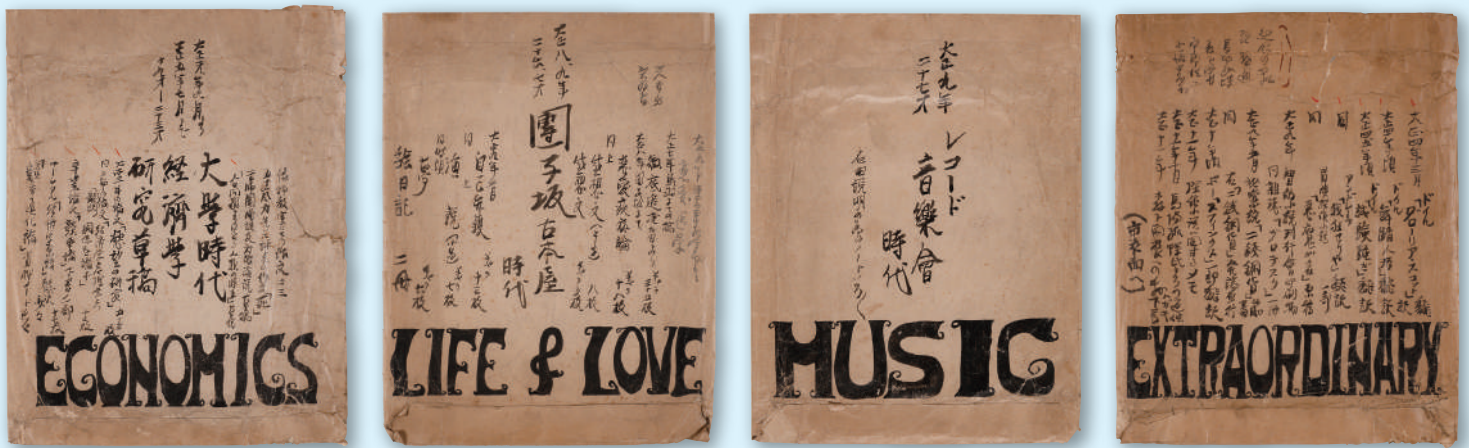
大正九年五月十日記



(うはまぬいへ)

EXTRAORDINARY

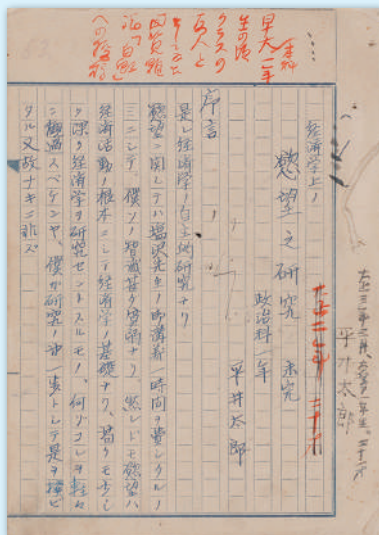
江戸川乱歩のスクラップブック『貼雑年譜』に収め



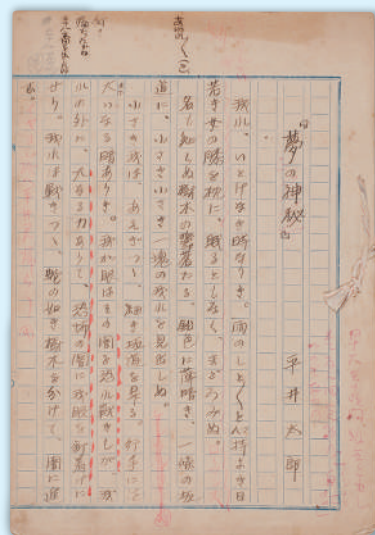
資料が収められている大型封筒

草稿

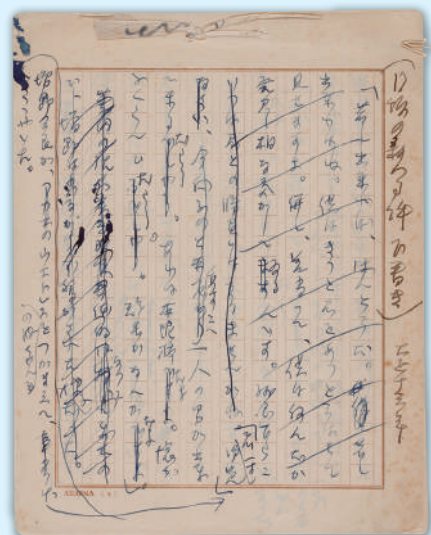
早稲田大学政治経済学科在籍中に書かれた論文や読書メモ、「D坂の殺人事件」「人間椅子」などの代表作の他、未発表の小説や戯曲の草稿。



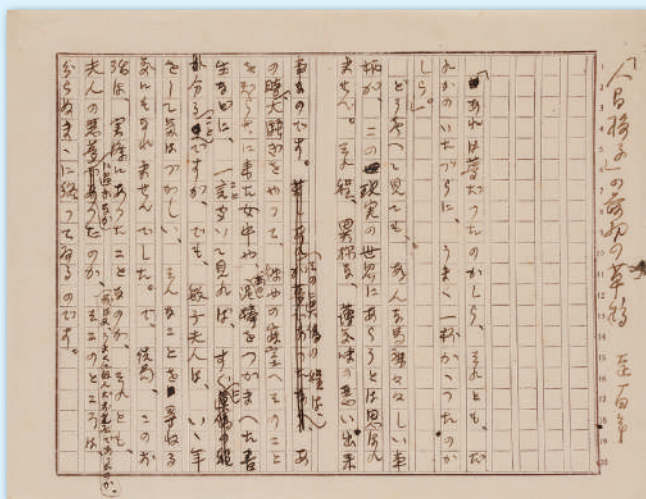
経済学上ノ欲望之研究 未完
(1914年4月16日)



夢の神秘



(D坂の殺人事件下書き)

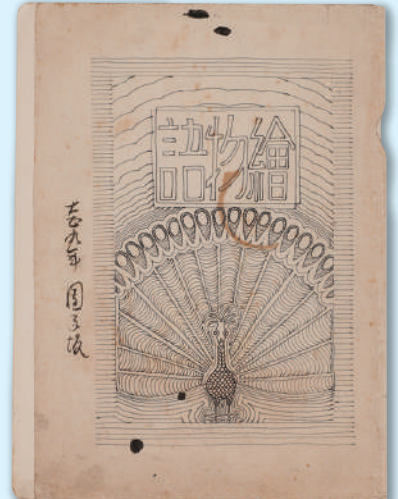


「人間椅子」の最初の草稿

ノート



絵日記その二 (1920～1922年)

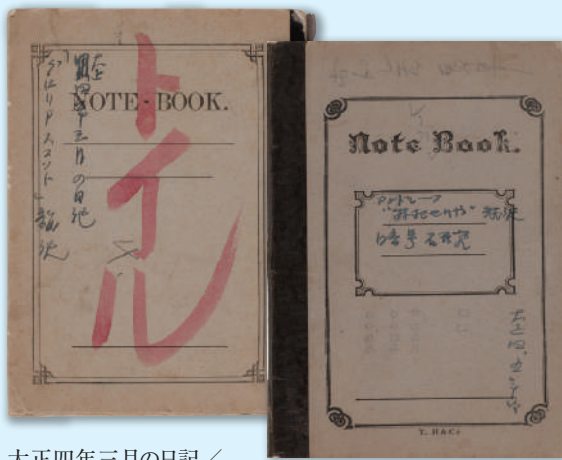


絵物語 (1920年)

きれなかった膨大な原資料群、初の全面公開

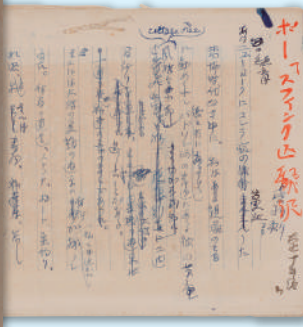
翻訳

コナン・ドイル、E・A・ポー、L・N・アンドレーエフ等の翻訳メモやノート。



大正四年三月の日記／
「グロリアスコット」翻訳
／トイル

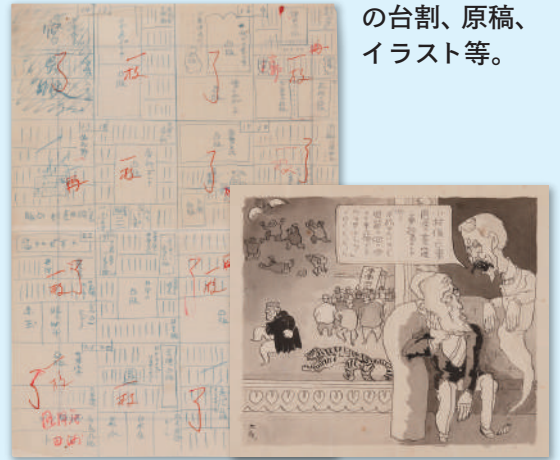
アンドレーフ「我狂せりや」
翻訳／暗号研究



ポー「スフィンクス」翻訳

「東京パック」

乱歩が編集に関
わっていた時代
の「東京パック」
の台割、原稿、
イラスト等。



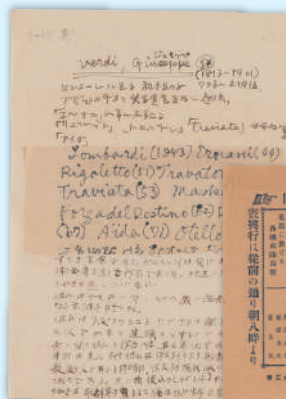
雑誌の台割、イラスト

プログラム、チラシ

浅草オペラ関連資料や、浅草十二階・花やしき等のチラシ類、浅草周辺の地図ほか、演劇・レコード関連の資料群。



外国名曲レコード公開プログラム



作曲家名メモ (Verdi)

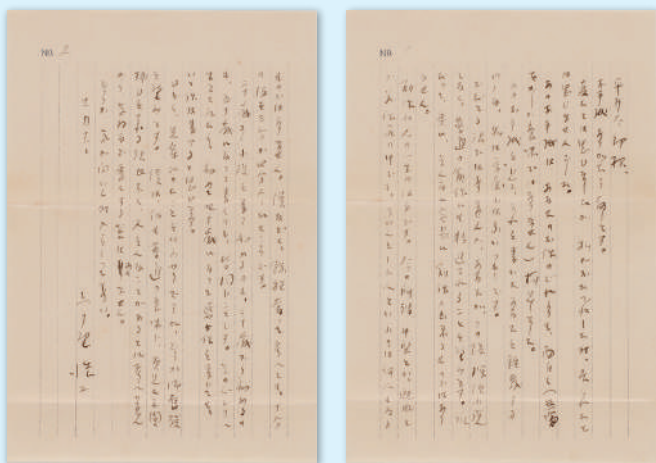


花やしき・浅草十二階チラシ



「デンキカン・ニュース」

書簡



平井太郎宛宇野浩二書簡（1926年11月）

同人誌・機関紙

乱歩が発行に携わった同人雑誌や機関紙。



『学生之友』

立教大学大衆文化研究センター(旧江戸川乱歩邸)所蔵

オンライン版

江戸川乱歩『貼雑年譜』補遺

価格 ¥180,000 (税別)

解題 石川 巧・杉本 佳奈(立教大学大衆文化研究センター)、浜田 雄介(成蹊大学)、小松 史生子(早稲田大学)

- ・完全買切型(ご購入後のプラットフォーム利用料、年間維持費用は不要です)
- ・お申し込みは学術機関に限ります
- ・機関契約のデータベースです(ご所属の異動等によりデータベースのアクセス権を移籍することはできません)

江戸川乱歩が制作したスクラップブック『貼雑年譜』(全9巻)には、スクラップブックには収めきれなかった、対ともいふべき原資料群が存在する。それらは乱歩の手により11の大型封筒にわけて保存され、『貼雑年譜』を補完する一大コレクションとなっている。本データベースは、それらを初めて全面公開するものであり、個々の資料を横断的に検索、閲覧できる。

「D坂の殺人事件」「人間椅子」等の草稿、ポーやドイルの翻訳ノート等、乱歩自筆資料はもとより、映画・演劇・レコード関連のプログラムやニュース、浅草十二階・花やしき等のチラシ類など、多彩な資料で構成されている。

近代文学、映画・映像、メディア、出版文化史はもとより、広く大衆文化研究に資するデータベースとなっている。J-DAC「近代文学作家自筆資料集」に搭載し、既刊の『貼雑年譜』や他の作家自筆資料との横断検索も可能。

J-DAC「近代文学作家自筆資料集」で横断検索が可能です

立教大学大衆文化研究センター(旧江戸川乱歩邸)所蔵
オンライン版 江戸川乱歩『貼雑年譜』

価格 ¥180,000 (税別)

解題：立教大学大衆文化研究センター 石川巧 金子明雄 尾崎名津子 後藤隆基

江戸川乱歩手製『貼雑年譜』全巻を横断的に検索・閲覧できる学術機関向けデータベース。『貼雑年譜』は、江戸川乱歩が収集、整理、保存した膨大な資料が貼り付けられたスクラップブックである。乱歩自筆のメモ、日記、原稿類のほか、作家や出版関係者からの書簡、映画・演劇のパンフレットやプレスシート、国内外の新聞雑誌の切り抜きなど、多岐にわたる2,600点以上の原資料が、乱歩のコメント等とともに台紙に貼り付けられている。明治27年から昭和39年までの全期間(全9巻)を、詳細な目録を付して収録する。

オンライン版 二松学舎大学所蔵 横溝正史旧蔵資料

価格 ¥300,000 (税別)

解題：山口直孝(二松学舎大学)

横溝正史(1902～1981)が残した膨大な自筆資料等を収録するデータベース。14,000枚を超える原稿・草稿、創作ノート・メモ、映画化された作品のシナリオ、本人が加筆修正を施した雑誌・単行本切り抜き等で構成された一大コレクションを横断的に利用できる。

オンライン版 虚子記念文学館所蔵 近代文学作家自筆資料集

価格 ¥300,000 (税別)

虚子記念文学館所蔵の明治～戦前期までの資料を対象とし、高浜虚子、夏目漱石、森鷗外、芥川龍之介、正岡子規、佐藤春夫など、日本の近代文学を牽引した60名以上の作家の自筆資料約450点を収録。